



2012年4月 第10巻第4号

かく語りきー聖人の言葉

「バクタの安心立命の境地とは人知を越えており、無類の価値がある」

(スワミー・ヴィヴェーカーナンダ)

「解脱の助けとなるもののうち、最も高いところにあるのが信仰だ。信仰とは、自己の本性の探究である」

(シャンカラ)

今月の目次

- ・ かく語りきー聖人の言葉
- ・ 今月の予定
- ・ 2012年3月の逗子例会：
第175回シュリー・ラーマクリシュ
ナ生誕祝賀会および協会別館落成式
を開催
- ・ 第175回シュリー・ラーマクリシュ
ナ生誕祝賀会スピーチ
『歓迎の辞』 日本ヴェーダーンタ協
会プレジデント スワミー・メダ
サーナンダ
- ・ 第175回シュリー・ラーマクリシュ

ナ生誕祝賀会スピーチ

『お礼の言葉』 日本ヴェーダーンタ
協会書記 三田村賢一

- ・ スワミー、第4回分大分ヨーガ・リ
トリートに参加
- ・ スワミー、1月の沖縄サットサンガ
に参加
- ・ 忘れられない物語
- ・ 今月の思想

今月の予定

・ 生誕日・

ブッダ 5月6日(日)

皆様のご参加をお待ちしております！

・ 行事・

東京・インド大使館例会

5月5日(土) 14:00～16:00

講演：バガヴァッド・ギター (無料)

場所：インド大使館 03-3262-2391

お問い合わせ：逗子協会 046-873-0428

ハタ・ヨーガ・クラス

5月12日(土)、19日(土)、26日(土)

11:00～12:30

場所：逗子本館 *体験レッスンもで

きます。

お問い合わせ：逗子協会

逗子例会

5月20日（日） 10:30

場所：逗子本館

特別講話：寿日雇い労働者組合 近藤昇様

テーマ：横浜寿町におけるホームレス神様への奉仕での経験

関西地区講話

5月26日（土） 13:30～17:00

場所：大阪研修センター

講師：スワミー・メダサーナンダ
『バガヴァッド・ギーターとウパニシヤッドを学ぶ』

スワミー・ヴィヴェーカーナンダ第150回生誕祝賀会

5月27日（日） 14:00～18:00

夏季戸外リトリートのお知らせ

2012年7月27日（金）17:00～29日（日）17:00

場所：東京都青梅市御岳山宿坊「能保利」

お問い合わせ：泉田シャンティ
shanti.k@r3.dion.ne.jp

2012年3月の逗子例会

シュリー・ラーマクリシュナ生誕祝賀会と協会別館落成式を開催

2012年3月18日（日）、日本ヴェーダ Tantra 協会逗子本部において、第175回シュリー・ラーマクリシュナ・デーヴァ生誕記念祝賀会 閉会式、および協会別館の落成式が開催されました。



これまで協会では祭事や月例会を、1978年に建設された本館にある礼拝室で執り行っていました。が、この礼拝室は収容人数が限られており、参加者に無理なく座っていただくには最大で30名～35名程です。このため、主要な祭礼など多くの参加者がある場合、大半の方々は十分に行事を見ることができません。そこで協会では2010年、本館から数歩のところの土地を購入し別館を建設することとしました。

別館の設計は、建築士の山内真人氏にお願いしました。山内氏は、協会の会員であり後援者であられた故・佐藤尚志氏から何年も前にご紹介いただいた方で、2005年に女性用ゲストハウス「ホーリー・マザーズ・ハウス」を建設した際にも設計をご担当いただきました。

別館は限られたスペースにできるだけ多くの人数を収容できるようにする必要がありましたが、山内氏の工夫を凝らしたデザインにより、何十人もの方々に儀式の様子をよく見ていただけるようになりました。また、武元工務店社長の武元成三氏と従業員の皆様のご協力のおかげで、極めて短期間に非常に低価で建設をすることができました。落成式は、協会の年中行事の中で最大であるシュリー・ラーマクリシュナ生誕祝賀会と併せて開催する企画としたため、式当日までに十分に時間がなく外装は未完成でしたが、内装は明るく柔らかな印象の美しい仕上がりとなりました。また、式当日は雨が予想されたため、武元工務店の皆さんが本館と別館の前に工事用のビニールシートを利用した雨よけやテントを設営してくださいました。

このイベントを成功させるために、スワミー・メダサーナンダの指揮の下、大勢のボランティアの方々が協力して準備を進めました。特に、ボランティアの中の数名はリーダーとして1か月以上も前からスワミーと打ち合わせを重ね、やるべき作業のリストを作成し、Eメールなどでボランティアを募集しました。生誕祭の前月の逗子例会では、作業の割り当て表がボランティアのサブリーダーの方々に早くも配布されました。

生誕祭の1週間前、3月11日（日）に10名以上のボランティアが協会に集まって様々な作業を行いました。本館とホーリー・マザーズ・ハウスに分かれて、隅々まで大掃除を行いました。本館では、礼拝用の道具の清掃も行いました。また、生誕祭に参加するために海外や日本の各地から合計で20名近い宿泊者が来訪するため、その寝具も準備しました。

13日（火）には、ロシアのモスクワにあるラーマクリシュナ・ソサエティ・ヴェーダーンタ・センターからプレジデントのスワミー・ジョーティルーパーナンダジが到着されました。この日から宿泊者の数は少しずつ増えていき、食事などのお世話をボランティアが交代で担当しました。

17日（土）、激しい雨が続く中、10名程のボランティアが協会に参集し、翌日の祝賀会のために最後の準備を行いました。シュリー・ラーマクリシュナらのお写真に飾るガーランド（花輪）やプシュパンジャリ（花の奉獻）などに使う大量の花や、供物の果物・お菓子、護摩の儀式に使う道具の準備、靴置き場の設置など、まだまだ多くの作業がありました。また、別館の電気工事が終了したのがこの日の夕方だったため、会場となる別館内にイスやステージを設置したり装飾したりする作業は夜遅くまでかかりました。

3月18日(日)午前6時、マンガラアラティ(朝拝)と聖句朗唱、瞑想で祝賀会が始まりました。午前10時30分、別館前で、主賓のスワミー・ジョーティルーパーナンダジが落成のテープカットを行いました。そしてスワミー・メダサーナンダが2階建ての別館内へと来賓の方々をご案内しました。1階には多目的ホール、小さなキッチン、トイレが、2階にはこじんまりとしたリビングルーム2部屋、バスルーム、キッチン、オーディオミキシングルームがあります。1階の多目的ホールは天井が吹き抜けになっており、2階の回廊やミキシングルームからも1階が見えるようになっています。実際、この日の儀式をこの回廊から多くの方に見ていただくことができました。



午前11時30分から、プージャ、アラティ(礼拝)、プシュパンジャリ(花の奉獻)、護摩焚きが行われ、午後1時30分に昼食のプラサードをいただきました。ご来場いただいたたくさんの方々をお待たせすることがないように、本館と別館の全部屋を使って昼食が振る舞われました。



午後3時に午後のプログラムが始まり、スワミー・メダサーナンダのウェルカムスピーチ、日本ヴェーダータ協会書記 三田村賢一氏の謝辞の後、スワミー・メダサーナンダが在インド ラーマクリシュナ・マート・アンド・ラーマクリシュナ・ミッション本部プレジデント スワミー・アートマスターナンダからの祝辞を代読しました。そして、スワミー・ジョーティルーパーナンダジから『シュリー・ラーマクリシュナの独自性』というテーマで講話をいただきました。

祭壇の横には大きなスクリーンが設置され、スピーチが英語で行われた場合は日本語の翻訳が、日本語のスピーチの場合は英語の翻訳がスクリーンに映し出されました。

その後の文化プログラムでは、協会の信者さんとヨーガスクール・カイラスの有志の方の合計約 30 名が、日本語の賛歌 3 曲を合唱しました。



また、インド人信者 サムドラ・ダッタ・グプタ氏とシュレヤシ・マンダル氏がそれぞれインドの賛歌を 2 曲ずつ歌いました。続いて、著名なシタール奏者アミット・ライ氏が、スダールサン・ラーム氏のタブラ、北見智美氏のタンプーラの伴奏で美しい演奏を披露しました。



茶菓の休憩の後、午後 6 時に夕拝を行い、午後 6 時 30 分からスワームィー・ジョーティルーパーナンダジに『ロシアにおけるヴェーダーンタの活動』というテーマで再び講話をいただきました。佐々木陽子氏が通訳をされました。



合計で約 170 名という非常に多数の方々にご来場いただきましたが、シュリー・ラーマクリシュナの恩寵により、またスワームィー・メダサーナンダとボランティアの方々のチームワークにより、式事を整然と予定通りに行うことができ、思い出に残る素晴らしい 1 日となりました。

第 175 回シュリー・ラーマクリシュナ生誕祝賀会および協会別館落成式 歓迎の辞

日本ヴェーダーンタ協会プレジデント
スワームィー・メダサーナンダ

スワームィー・ジョーティルーパーナンダジ、信者・友人の皆様

本日は、シュリー・ラーマクリシュナ・デーヴァ生誕記念祝賀会および日本ヴェーダーンタ協会新別館落成式にご参列いただきましたことを、協会を代表して厚く御礼申し上げます。また、ロシアにございます、ラーマクリシュナ僧団モスクワ・センターのプレジデント スワームィー・ジョーティルーパーナンダジに特別にお越しいたきて

ープカットを行っていただきましたこと、また午後のプログラムではスピーチもいただけますことを大変喜ばしく思います。

この記念すべき行事に、当協会の信者・友人の皆様には日本のみならず世界の各地からご参加いただいています。カナダからはゴシュワーミ博士に、フィリピンからはガングリご夫妻、エンリコ・コロンボ氏、チップランカル夫人に、国内では沖縄、大阪、山形など各地からたくさんの方々にお越しいただき、この記念すべき日を共にお祝いいただくことができました。

インドに本部を置くラーマクリシュナ僧団の支部である日本ヴェーダーンタ協会は、近代インドの預言者シュリー・ラーマクリシュナがその生涯を通して体現した、インドの古代哲学ヴェーダーンタのメッセージを研究・実践・普及することを目的として創設されました。シュリー・ラーマクリシュナの生涯と教えは、普遍的で調和に満ち、合理的・現代的でありながらも非常に霊性が深く、世界中の人々にインスピレーションを与え、慰めと喜びをもたらしてきました。

現在、日本は度重なる危機にさらされ困難な状況に置かれています。長引く景気の低迷、震災による人命の大きな損失、被災した原子力発電所の放射能

問題を始め、様々な問題や社会的疲弊に直面しています。その結果、この国の多くの人々は心の平安を保つことができず生きる方向を見失い、苦しみにあえいでいるのです。こうした状況の中、シュリー・ラーマクリシュナの生涯と教えは、人生に吹き荒れる嵐の中で日本の方々が進むべき道を指し示す灯台となり、平安や喜び、強さ、叡智に至る道を照らし出すことでしょう。

このシュリー・ラーマクリシュナ生誕祝賀会に臨み、皆様がシュリー・ラーマクリシュナをより深く知り、できる限りその教えに倣い、その恩寵を手にするのを切に願います。そのために、私どもの協会は皆様にご奉仕をさせていただく所存です。

本日の来賓であるスワーミー・ジョーティルーパーナンダジも、後のスピーチの中でシュリー・ラーマクリシュナについて様々なお話を聞かせてくださいますので、皆様にとってシュリー・ラーマクリシュナをよりよく知る、良い機会となることでしょう。

スワーミー・ジョーティルーパーナンダジはラーマクリシュナ僧団の高僧で、サンスクリットおよびヒンドゥー聖典の学者であります。1993年にロシアのセンターの初代プレジデントに就任されて以来、当地に駐在され、非常に保守的な宗教グループから強硬な反対

に遭うなどの逆境をものともせず、ヴェーダーンタとシュリー・ラーマクリシュナのメッセージを伝え続けておられます。インド出身であるため厳しい冬の寒さに慣れておられないジョーティルパーナンダジは、時にはマイナス30度まで気温が下がる彼の地で生活を続けておられます。インドの素晴らしい霊的伝統を是が非でも伝えようという比類なき情熱と不屈の精神なくして、このように長きにわたり活動を続けることは不可能だったことでしょう。

さて、私どもが「別館」と呼んでいますこの建物は、この度新しく建設され本日午前にスワミー・ジョーティルパーナンダジにより落成のテープカットが行われました。この別館の建設に至った背景を皆様に少しご説明させていただきます。

日本ヴェーダーンタ協会の本館は1978年に建設されました。協会の祭事や月例会は本館内の礼拝室で執り行っていますが、この礼拝室は収容人数が限られており、皆様に無理なく座っていただくには最大で30名～35名程です。このため、主要な祭礼など多くの参加者がある場合、大半の方々は十分に行事を見ることができません。この問題を解決すべく協会では2010年、本館から数歩のところへ土地を購入しました。

皆様をご覧の通り、この別館は2階建てで、1階に大きな部屋を設けて祭事等を執り行えるようにし、2階にこじんまりとしたリビングルーム2部屋とキッチン、バスルームを設けました。この建物を、特別な祭礼やプログラムの他、ヨーガのレッスンの開催など様々な方法で活用していく予定です。建設工事はまだ完了していませんが、落成式を別途行うことは様々な事情から難しいと判断し、協会の年中行事の中で最大のイベントであるシュリー・ラーマクリシュナ生誕祝賀会と共に開催することと致しました。このため、設備等もまだ十分に設置されておらず、皆様にはご迷惑をおかけしますことをお詫び致します。

別館の建設にあたりましては、協会の会員であり後援者であられた故・佐藤尚志氏に何年も前にご紹介いただいた、建築士の山内真人氏に大変お世話になりました。山内氏は、2005年に建設され信者の皆様からの評判も大変良い、協会のゲストハウス「ホーリー・マザーズ・ハウス」の設計もご担当いただきました。別館は限られたスペースにできるだけ多くの人数を収容できるようにするという目的のため、その設計には困難を要したと察しますが、山内氏のこの素晴らしいデザインは、ホーリー・マザーズ・ハウス同様、皆様にきっと喜んでいただけるものと確信しています。革新的なアイデアとスキ

ルの持ち主であるだけでなく、謙虚で親しみやすい雰囲気の中内さんは、私どもにとってなくてはならない、長年の大切な友人です。

また、武元工務店社長の武元成三氏にも謝辞を述べたいと思います。武元氏は、最も低価で別館の建設を引き受けてくださっただけでなく、本日の落成式に間に合うよう極めて短期間で建設を進めるといふ不可能とも思えるような仕事を、従業員の方々と共にやり遂げてくださいました。

さらに、ご寄付をくださった皆様にも心から感謝を申し上げたいと思います。皆様のおかげで、土地を購入し、建物を設計し、建設もほぼ完了というところまで来ることができたのです。皆様に神様の恩寵がありますように。

この美しい地に立つ協会のアシラムをより多くの方が訪れ、ここで提供する様々なご奉仕やサービスを利用していただくことを願ってやみません。

最後に、このセンターがここまで発展することができたのも、シュリー・ラーマクリシュナ、ホーリー・マザー・サーラダー・デヴィ、スワミー・ヴィヴェーカーナンダの限りない恩寵のおかげです。タクール、マザー、スワミーに、これからも私たちが未来へ向かって導いてくださるよう皆様に

祈りを捧げましょう。

第 175 回シュリー・ラーマクリシュナ 生誕祝賀会および協会別館落成式 お礼の言葉 日本ヴェーダーンタ協会書記 三田村賢一

こんにちは、本日は、お忙しいところ、遠くはロシアから、ラーマクリシュナミッションロシア支部、プレジデントマハーラージ、スワミー・ジョーティルーパーナンダジをはじめ、日本全国、北は北海道より南は沖縄まで、さらにはカナダ、フィリピンなど遠方より、第 175 回シュリー・ラーマクリシュナ生誕祭及び、日本ヴェーダーンタ協会別館の竣工式典にお越しいただき、誠にありがとうございます。

当協会も昨年 50 周年を迎えることとなり、日本における信者の方も、ゆっくりですが増え続け、大きなイベントなどには、本館だけでお客様全員にお入りいただくには困難な状況になりましたので、今年創立 51 年目に新しく別館を作ることになりました。

この別館ができるまでには、多くの方々の奉仕の精神と努力と苦勞がありました。この協会を 50 年間発展させ続けてきた、創設当時から現在に至るまで、今は亡くなられた方もいらっしゃいますが、この熱心な信者の方々が

らしたからこそ、今日があります。その方々に心より感謝申し上げます。

また、この協会のマザーハウスを始め、この別館の建築に当たっていただいた一級建築士山内様、無理難題を快く引き受けて下さった竹元工務店様に心より御礼申し上げます。そして、この別館の初期の段階から契約に至るまで、骨身を惜しみご尽力して頂きました、前事務長の三宅豊氏にも感謝を申し上げます。

また、この建築にあたり、多大なご寄付をして頂いた多くの信者の方々、当協会にて毎週土曜日にヨーガ教室を受講されている、ご近所の住民の方々の心よりのお心遣いに感謝申し上げます。

去年は、東北の震災により、多くの日本人が、不安と心配と恐怖の中で毎日を過ごしていたのがつい昨日のように思います。去年の今頃は、街には、ガソリンがなく、水やコメが売り切れ、スーパーにはモノがなくなり、計画停電により電気がつかない日々でした。あれから丁度一年が過ぎました。当協会としましても出来る限り、被災されている方々への奉仕をさせていただきました。今後も皆様のご協力を得て続けていく所存でございます。困っている人、貧しい人びとを神と見て奉仕するのが、この僧団の創立者であるスワームー・ヴィヴェーカーナンダジの教

えの一つです。

現在、日本人の多くが、混沌とした毎日を送っています。将来の希望に対して暗い状況を抱え、精神的にも弱っていらっしゃる方が沢山いることも事実でございます。この状況を考えますと、ますます、この協会の必要性が重んじられる時代であることは明確です。そして、物質だけでなく、心の避難所としての役目を果たすのも、この協会の使命です。

いつでも、どなたにでも、気軽に、静かな気分になりたい時の場所として、疲れた翼を休める場所として、自分自身を見つめる場所として、自分を純粹にする場所として、平安と至福を得る場所として、また、高い知識を得る場所として、自分が何者かを見出す場所として、すべての方々にこの協会は開かれています。一人でも多くの信者の皆さまがこの場所を気軽にご利用されることを願っております。

最後になりますが、今日この日が開催できましたのも、これもすべては、シュリー・ラーマクリシュナ、ホリー・マザーことシュリー・サーラダー・デーヴィー、スワームー・ヴィヴェーカーナンダジの恩寵により実現することができました。そしてまた、寝る時間も惜しみ、自分のことも忘れ、シュリー・ラーマクリシュナの身内として、

カルマ・ヨーガとして、一生懸命に奉仕された30名近いボランティアの皆様一人一人のお力のお陰でございます。

ボランティアリーダーの鈴木敦さん、泉田さんはじめ、カイラスヨーガグループの皆様、おいしい食事を作ってくださいましたソフィアさん、フィリピンからお越しくださしました信者の方々、影でお世話してくださりました信者の方々に拍手をもって深く感謝の意を表したいと思います。

本日は、お休みのところ、この式典に駆けつけてくださいました信者の皆様すべてに、シュリー・ラーマクリシュナの恩寵があることを願って感謝の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

スワミー・メダサーナンダ、第4回分大分ヨーガ・リトリートに参加 (神力美智子氏寄稿)

去る3月30日～4月1日の2泊3日、大分県湯布院の聖マリア修道院で、メダサーナンダ・マハラージをお迎えして第4回分大分ヨーガ・リトリートが開催されました。参加者は33名、主催は大分・臼杵（うすき）在住のヨーガ指導者、じねんやす・ゆうこ御夫妻と神力でした。

今年のテーマは『ギャーナ・ヨーガ』

と『ポジティブな生き方』でした。「自分を深く知らなければ、人生を無駄にします。一番大きな無知は内なる自己についての知識がないことです。自分の本性は何かを深く調べて自己について勉強することが大事。それが、まさにギャーナ・ヨーガのテーマです。」「家が火事になったときに井戸を掘ろうと思う…これでは駄目です。『実在』と『非実在』を識別して内なる自己にフォーカスする毎日の実践が必要です。」とマハラージは日常的な問題を例にとって解りやすくお話くださいました。

夕拝の後の誘導瞑想はギャーナ・ヨーガの道に基づく瞑想でした。また、沈黙でいただく食事の時にもマハラージのご指導で識別の実践をしました。



朝の瞑想の後にはじねんさん指導のゆるヨーガで身体をほぐし、夕拝の前には春が訪れたばかりの湯布院をマハラージと一緒に散歩しました。夜のサットサンガでは、熊本の正木高志さん千鶴子さん・ラビさん・オトさん御一家によるコンサートがあり、優しく心洗

われる歌を皆で楽しみました。

最終日の朝、マハラージがシバ神への賛歌を教えてくださいました。この日の午前の講義は『ポジティブな生き方』。それを続けるためにインスパイアリング・メッセージを紙に書いて机に張り、毎日見ることが大切だとおっしゃいました。こうすることでポジティブな生き方をしようという意欲を維持することができます。



午後はマハラージが教えて下さった様々なメッセージについて参加者が感想・意見を述べ、講義の内容についての質疑応答がありました。毎日の実践に生かせ自己成長に役立つマハラージの助言をいただき、有意義なリトリートを終えました。

(注：編集部にて一部加筆・修正しました)

スワミー・メダサーナンダ 1月の沖縄サットサンガに参加

1月29日(日)、沖縄県北中城村のヒ

ンドゥー寺において開催された沖縄ヨーガニケタンの一般公開講演会で、スワミーが『積極的な生き方』というテーマで講話を行いました。主催者は新屋 智恵美氏、ラジネシ氏で、参加者は24名程でした。

忘れられない物語

盗めない月

良寛禅師は、山の麓の小さな小屋で大変質素な暮らしをしていました。ある晩、この小屋に泥棒が入りました。しかし、小屋の中には盗む程価値のあるものは一つもありません。

外から戻ってきた良寛禅師は、泥棒を見つけるところ言いました。「お前ははるばる私を訪ねてきたのだから、空手で帰すわけにはいかない。私の着物を土産に持って行きなさい」

泥棒はどうしたものか困っていましたが、着物を抱えるところこそと逃げていきました。

良寛禅師は裸のまま座ると、月を眺めて考えました。「せっかく盗みに入ったのに気の毒なことをした。この美しい月をあげてやれたらよかったなあ」

(禅の公案より)

今月の思想

信仰とは、実は、正しい知識のことである。信仰とは、知性が認めないものを信じることではない。より高貴な仮説を選択することだ。信仰とは、私たちの観察する事実にもっと高い意義を与えようという決意である。

(Gerald Heard “Prayers and Meditations” より)

発行：日本ヴェーダーンタ協会

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: info@vedanta.jp